

重要文化財門脇家住宅 一般公開・特別企画の お知らせ

重要文化財門脇家住宅秋季一般公開が、11月2日（金）～4日（日）まで行われます。（公開時間10時～16時30分、入館料一般500円・小学生200円）。

今回の展示は、門脇家所蔵の美術品のほか、特別展示として川原栄次・かなよ夫妻による「大山友禅染」心を染めて」展、藤原京子氏による水引細工展を行います。

皆さん、お誘い合わせてお越しください。

【特別企画】

「結むすびの会」による朗読会

11月2日（金）17時30分

フリーアナウンサーの中村緑氏と菊詔陽子氏（三絃演奏）による朗読会です。春の公開で好評をいただき、今回はしつとりと長編小説をお届けします。

（定員あり・参加費500円）

◆申込み・問い合わせ先

重文門脇家

☎0859・53・4062

まちのたから (43) 文化財室通信

シリーズ 「日本遺産」 第17話

今回は、最終章「大山さんのおかげ」について紹介します。

「大山さんのおかげ」

日本遺産の最終章では、「大山さんのおかげ」と結んでいます。

これまで紹介してきました「水」、「大山信仰」、「牛馬信仰」と博労座で開かれた大山牛馬市の隆盛とが相互関係を保ちながら西日本を中心に大きな信仰圏を形成していきました。それは大山の水が伏流水（天恵の水）としてもたらされるように、長い年月をかけて、人々の生活に沁みわたり、静かに根付いていきました。とりわけ、大山の裾野に暮らす人々は「大山さんのおかげ」と日々感謝の念を抱き、時には手を合わせながら、大山を仰ぎ見て生活をしている、というものです。

「大山さん」は、麓の人々が大山に対する畏敬と親愛の念を込めた呼び方です。大山を大切にしたいがそこに込められています。

皆さんは「大山さん」に対し、どんな想いをお持ちですか？

「大山賛歌」

「♪あなたがもしも」のフレーズで始まる大山賛歌。元々は、昭和47年2月の大山国体冬季大会開催を記念して「大山をたたえる歌」を広く一般から募集したものです。北は北海道、南は九州までの全国31都道府県から736点の応募があり、その中で当時大山中学校3年生の松田美代子さんの「わがこころの山」が入選しました。大山国体では、この大山賛歌が大合唱され、多くの感動を呼びました。

この「大山賛歌」は、平成27年10月10日に行われた大山町合併10周年記念式典において、町民歌として制定され、日々の生活の中に息づいて



▲赤坂大五輪塔 掃部助の墓とも伝わる

います。

大山にまつわる俚諺や民話

『伯耆民談記』には、このような話が載っています。赤坂（旧中山町）周辺を拠点とした土豪・赤坂掃部助幸清は、後醍醐天皇が船上山に上られる際に馳せ参じ、大いに忠勤を尽くした人物です。この赤坂掃部は、大山権現（大智明権現）を厚く崇拜していました。そのため、日々大山権現への参詣を願っていました。いろいろな差し障りがあり、とうとう一生涯大山権現に参詣することができないまま亡くなってしまいました。人々は、この故事から、ものごとが長引いて解決しないことを、「掃部殿の大山参りにて埒が明かぬ」という言葉で囃すようになったと伝えられています。

また、大山にまつわる俚諺には、
 ・大山に雲がかかると風になる
 ・黒豆は、大山さんに芽が出るように蒔く

・大山が竿雪になると田仕事をする
 といった、天気に関することや、農作業の目安になるものがあります。

麓に住む人々にとって、大山の存在は日々の生活と共にある山、という側面もあります。

（社会教育課 文化財室）